



葉のつけ根に白色のさや
(はかま)をつける。

食 シャク セリ科



花の咲く時期は
5月下旬～6月上旬

高さ1～1.5mになる多年草で、茎は中空で水分を含んでもろい。平地～山地の湿気のあるところに群生する。
セリとミツバを合わせたような香りと味がする。ニンジンの葉に似ているので、ヤマニンジンの別名がある。
花の終わった後のフクジュソウ(毒)とも似ているが、はかまと香りで区別がつく。



花の咲く時期は7月



茎に紫色の斑紋がある。

毒 ドクニンジン セリ科

ヨーロッパ原産だが、帰化して野生化している二年草。乾燥地に生え、高さは1.5m以上になり、折ると嫌なにおいがする。
ニンジンの葉に似ており、有毒であることからこの名がついた。
札幌市内の自生地が拡大しているので、注意が必要である。

有毒部位：全草
有毒成分：コニイン
中毒症状：中枢神経興奮、運動麻痺、呼吸困難→死亡

※平成9年4月にドクニンジン(毒)をシャクと誤認して食べて中毒する事故が札幌市内で2件発生した。